

当院における SARS-CoV-2 検査の実施状況

検査材料別の判定保留率と遺伝子検査の結果

◎水口 幸祐¹⁾、杉山 真理¹⁾、袴田 知里¹⁾、鈴木 崇浩¹⁾、佐藤 雄一朗¹⁾、風間 文美代¹⁾、井出 雅子¹⁾
 地方独立行政法人 静岡市立静岡病院¹⁾

【はじめに】当院は感染症病床 6 床を有する静岡県内唯一の第一種感染症指定医療機関である。時間外の COVID-19 検査体制確立のため、既存の遺伝子検査機器に加え、新たに「ルミパルス G1200Plus（富士レビオ）」を導入し、1 年が経過したので検査状況と結果について報告する。

【対象と方法】対象期間：2021 年 2 月 19 日から 2022 年 4 月 3 日、検査材料と患者背景、検査結果について集計を行った。同一患者の検体は、のべ件数として集計した。検査材料は唾液または鼻咽頭拭い液（以下 鼻拭）とした。唾液は 3 倍量の PBS を加え攪拌、鼻拭はウイルス保存液に懸濁後、4200×g 10 分遠心し測定した。結果判定はメーカー提示のカットオフ値（唾液：陰性＜0.67≦判定保留＜4.00≦陽性、鼻拭：陰性＜1.00≦判定保留＜10.00≦陽性）を使用、判定保留は遺伝子検査（LAMP 法または PCR 法）による確認を行った。ただし、陽性患者の陰性確認目的や患者背景から医師が不要と判断した 8 例は行わなかった。

【結果】判定保留は総検査数の 3.8%（143/3788）このうち遺伝子検査で陽性となったものは 19%（26/135）であった。

検査材料別での判定保留率は唾液 3.1%、鼻拭 5.3%、遺伝子検査による陽性率は唾液 24%、鼻拭 11%であった。

材料	総数	外来	入院	陰性	陽性	保留	PCR+	PCR-
唾液	2588	1813	775	2367	142	79	19	55
鼻拭	1200	979	221	1051	85	64	7	54
総計	3788	2792	996	3418	227	143	26	109

【考察】鼻拭は医師または看護師による採取で、有症状の救急外来患者が多く、唾液は無症状の予定入院患者や感染対策目的で実施した職員検体が含まれている。唾液は自ら専用容器に採取するため、材料の性状や量によってウイルス量に差があるのではないかと思われた。また、抗原定量検査の結果から遺伝子検査の結果を推定することはできないが、定量結果が低値のとき、遺伝子検査は陰性となる傾向がみられた。

【結語】抗原定量検査は操作の簡便性、迅速性から有用である。検査材料に唾液を採用したことで、採取者の感染抑制の一助となっている。

連絡先：054-253-3125（内線：5430）